

2011 年度経済学史定期試験問題 正解赤字

I 下の表と人名・学派名群を見て下記の問いに答えよ。

表

	古典派の時代	新古典派の時代	ケインジアン の時代	新しい古典派の 時代
出発点となつた経済学説史上の革命	経済学の創設	①	ケインズ革命	反ケインズ革命
その時代背景	② (4)	③ (5)	④ (1)	⑤ (2)
その創始者	⑥ (5) (継承者 ⑦ (4))	(イギリス)⑧ (3) (オーストリア)⑨ (9) (フランス・スイス)⑩ (8)	⑪ (2)	⑫ (1)
その主張	⑬ (3)	⑭ (1)	⑮ (5)	⑯ (2)
前時代の学説との総合者	⑰ (7)	⑱ (6)	ヒックス サミュエルソン	新しいケインズ 理論

人名・学派名群

- (1) フリードマン (2) ケインズ (3) ジェボンズ (4) リカード
 (5) スミス (6) マーシャル (7) マルクス (8) ワルラス
 (9) メンガー

問1 欄①に当てはまる語はどれか。下記の語群(1)～(4)のうち、最も適切なものを一つ選び、その記号をマークせよ。

- (1) 新古典派革命 (2) 限界革命 (3) 数理化革命 (4) フランス革命

問2 欄②～⑤に当てはまる文章はどれか。下記の(1)～(5)のうち、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、その記号をマークせよ。

- (1) 工業諸国はみな長期にわたる深刻な不況にみまわれ、大量の失業者がいつまでも街にあふれた。
 (2) 先進各国が、不況なのにインフレ率が高い現象に悩まされた。
 (3) イギリスでは産業革命が進展し、出現した工業都市の不衛生なスラムに住む労働者達が、女性や児童も低賃金の長時間労働に酷使されていた。
 (4) イギリスでは、貿易制限や北米植民地経営などの重商主義政策が行き詰まりを見せる中、工場制手工業が進展し、産業革命を迎えようとしていた。

(5) マルクス達を中心となった労働運動が国際的に隆盛し、ついにパリで世界初の社会主義政権ができた。

問3 欄中⑥～⑫に最も当てはまるものを、人名・学派名群からそれぞれ一つずつ選び、その記号をマークせよ。

問4 欄⑬～⑯に当てはまる文章はどれか。下記の(1)～(5)のうち、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- (1) 微分を使った効用最大化の手法を導入し、商品の価値が、投下労働や単位費用ではなく、主観的な効用に基づくことを主張した。
- (2) 裁量的な総需要拡大政策は、物価上昇が人々の予想に織り込まれると、結局無効になり、物価が上昇するだけ有害である。よって、経済に対する政府の介入は減らし、民営化や規制緩和で市場の自由化を進めるべきである。
- (3) 一国の富は、有用な生産物の量で決まり、それを増やすのは分業の進展と、不生産的労働を生産的労働にまわすことによる。商品の価値は、投下労働、またはそれが発展した形態である、正常利潤込みの単位費用によって決まる。
- (4) 資本主義的生産様式は、そのもたらした巨大な生産力と矛盾するようになり、労働者による革命によって崩壊する。
- (5) 資本主義経済は、放任すれば総需要不足により非自発的失業を出して均衡する場合がある。そこで、完全雇用を実現するためには、政府が財政政策などの総需要を拡大する介入を経済に対して行わなければならない。

問5 欄中⑰⑱に最も当てはまるものを、人名・学派名群からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

II 以下の⑲～㉓の人物の主張としてあてはまるものを、それに続く選択肢(1)～(4)の中から一つずつ選び、その記号をマークせよ。

⑲ スミス

- (1) 個々人の利己心を追う競争によって、努力をした者が豊かになり、怠けた者が貧しくなるようにすれば、みな勤勉になって国が豊かになる。
- (2) 政府の介入をなくして、競争で生産性が上がるようにすれば、貿易黒字が増えるので国が豊かになる。

- (3) 自由貿易にして、産業を国際競争にさらせば、生産性の高い業者が生き残って国際競争力がつき、貿易黒字が増えるので国が豊かになる。
- (4) 世の中の圧倒的多数である労働者が貧しい社会がいい社会のはずはない。賃上げのための労働運動を政府が禁圧するのは間違っている。

⑩ リカード

- (1) あらゆる産業で他国より生産性が劣っている国も、自由貿易にすれば、生産性を上げずとも利益を得る。
- (2) 穀物の価値は、その穀物を生産するために社会的に平均して投入される労働によって決まる。
- (3) 貿易が活発になるとおカネがよく回り、経済が活性化するから、自由貿易にするべきである。
- (4) 自由貿易にしないと、資本蓄積が進むごとに、それに比べて市場が狭くなって、やがて総需要不足から利潤が低下して成長がストップしていく。

⑪ マルクス

- (1) 資本主義経済の発展は、世界を普遍化し、長い目で見た平均としては均衡的な生産配分をもたらしてきた。
- (2) 資本主義経済での商品の価格は、長期均衡的には、その商品を生産するために投入される労働時間に比例する。
- (3) 資本主義社会の不正な構造の基本は、強者が弱者を食い物にするモデルで説明でき、利潤とは、売り手が買い手の足下を見て価格をつり上げることから生じる。
- (4) 資本家の利潤に課税して労働者に再分配して、所得格差をなくすことが、目指すべき社会変革である。

⑫ ワルラス

- (1) 資本主義経済では、自由放任に任せておけば、市場メカニズムが働いて自動的に一般均衡が実現する。
- (2) 商品の交換割合は、その商品の消費から1単位あたり平均に得られる効用に比例する。
- (3) 後年「ワルラス法則」と呼ばれる法則は、「諸財の超過需要の和はゼロ」ということである。

(4) 社会主義をめざすべきである。

②③ マーシャル

(1) 価格は、需要曲線と供給曲線の交点で決まるのだから、供給側の要因だけで価格を規定した古典派は間違っている。

(2) 資本主義企業は永遠の形態ではなく、将来的には、協同組合に進化していくべきである。

(3) 市場均衡は社会全体の効用を最大にする。

(4) 供給価格が限界費用に等しくなるのは、費用が最大になるように生産が決まるからである。

②④ ケインズ

(1) 資本主義経済で非自発的失業が発生するのは、価格や貨幣賃金率が硬直的だからである。

(2) 古典派や新古典派は「ワルラス法則」を前提しているために、非自発的失業の存在を認識することができなかった。

(3) 非自発的失業が発生する根本的な原因は、人々が何も買うつもりがなくてもとりあえず貨幣を持ちたがる性質にある。

(4) 貨幣の量を増やしても同じ比率で物価が上昇するだけである。

②⑤ フリードマン **全員正解点**

(1) 70年代までのアメリカは財政や規制による保護のせいで国際競争力が衰えたので、財政削減や規制緩和で生産性を上げ、国際競争力を取り戻すべきである。

(2) 70年代のインフレは、労働組合による過剰な賃上げが原因である。

(3) 1930年代大不況のときは、積極的な金融緩和政策をとって景気を拡大させるべきであった。

(4) 資本主義経済では差別や偏見はなくなるので、貧困に陥る人が出るのは本人の責任である。